

## DESIGN REPORT

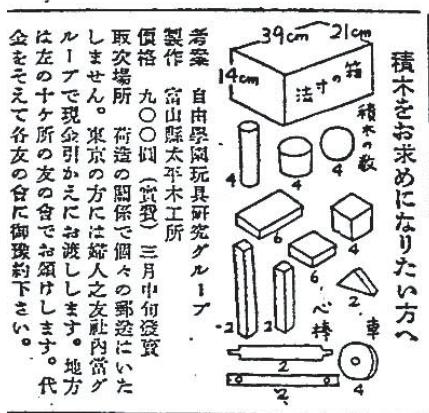
## 使い手と玩具を育む -自由学園工芸研究所-



↑コルク積木／レンガの大きさを基準として形をつくっている。布袋入りの「ミニコルク」もある。



↑学園積木／球体があるのが特徴。みかんなどを握った時のような手に馴染む大きさ。この球体を基準に形を展開。当初は車輪になるようなピースもあった。(↓昭和24年の資料より)



自由学園工芸研究所は、1932年に自由学園の卒業生達によって創立された。大きく分けると織物・染色・工芸・玩具からなっており、それぞれ専門のスタッフがいるが、研究や開発は共に行っている。玩具部門は、当時国産の玩具がほとんどなかったため、“国内の素材を使って、親が考える玩具を手作りで子ども達に届けたい”という想いから発足した。

商品は、普段の子どもとの生活のなかで、お母さん達が“こんなものがあつたらしいなあ”と思うことを形にしたり、幼児生活團に通う子どもと親と、そして工芸研究所のスタッフとが一緒に遊ぶ交流の場で、子ども達が遊ぶ様子を観察したり、お母さん達の意見を聞いたりして、研究を重ねている。

創立して約70年を迎えたが、販売しなくなった物もあれば、変わらず売られている物もある。また、同じ商品でも、名前や素材、パーツのデザインの転換もみられる。このような商品展開は、もともとの先輩達の商品に対する想いや基本コンセプトは受け継ぎながら、こんなものは?と意見があれば試してきたからだ。“親御さんや依頼先の工場の方など、携わっている方々と互いの顔がみえ安心できる関係を築いてこれたから”と、現在玩具担当の五十川さんは語る。世の中に出したから完成品なのではなく、時代時代の声を聞きながら共に商品を育み続けているのである。

●コルク積木（左上）は、1985年にグッドデザイン賞を、1996年にはグッドデザイン賞受賞後10年以上変わらず愛され続けている商品に贈られる、〈グッドデザインロングライフ賞〉を受賞している。2・3世代にわたって使っている家族もいるそうで、角が丸くなつて、色や手触りに深みが出てきたそうだ。また、一つパーツを無くしても、それだけの販売にも対応してくれる。

●学園積木（左中）は、創業から作られているもの。自由学園明日館講堂の設計者であり、明日館の設計者フランク・ロイド・ライトの弟子である、遠藤新さんも関わっている。当時の工芸研究所の方々との学園積木についての対談記録では、形・大きさ・なめらかさなどの純粋感覚の早教育の必要性を語っている。

(取材協力／自由学園工芸研究所玩具担当 五十川由美さん)

◆工芸研究所はJM SHOPで展示販売しています。

JM SHOP：自由学園明日館内  
営業時間：火～土10:30-17:00 日12:00-17:00  
定休日：月・祝祭日  
TEL 03-3971-7297 FAX 03-3971-7298

自由学園工芸研究所  
〒171-0021 東京都豊島区西池袋2-31-3-2F  
TEL 03-3981-1056 FAX 03-3981-1092  
URL <http://www.jiyou.jp/shuu/kougei/>



## topic

## 一小金井祭に 非木材紙容器「eモールド」を導入ー

取材協力：「青空教室」小山田和代(F類環境教育2年)



↑「青空教室」のマスコット「青空坊や」。広報担当の美術科2年 和田真理子さんのデザイン。

←小金井祭では、飲食系の4団体がエコ容器導入に参画。このボウル型とトレー型の2種を使用した。

## □ 本研究は以下の方々に御支援いただいております

(敬称略・あいうえお順)

- ・大山プレカット協業組合
- ・笠原木材株式会社
- ・株式会社チクモク

- ・有限会社長堂材木店
- ・有限会社藤井材木店
- ・銘建工業株式会社
- ・有限会社ラック

## □ 木活プロジェクト研究月報 vol.7

発行：鉄矢悦朗研究室（環境プロダクトデザイン研究室）

Tel&Fax: 042-329-7581

E-Mail: [tetsu@u-gakugei.ac.jp](mailto:tetsu@u-gakugei.ac.jp)

URL: <http://www.u-gakugei.ac.jp/~w-woods/>

発行日/2004.12.10 編集・デザイン/八重樫幾世子